



平成 30 年を振り返って…

■「Hello!NEW」プロジェクトの本格始動

別子銅山の開坑以来、新しい仕事生まれ、そこで働く新しい人々を迎え入れ、新しい技術や新しい産業生まれ、発展してきたまち、それが新居浜市です。

「新しいをチカラにするまち」「Hello!NEW 新居浜」をスローガンに掲げ、「再発見」と「創造」、この二つの新しいをチカラに、みんなが誇れる、そしてみんなに愛される、新しい新居浜をつくるための活動を進めています。

■ふるさと映画の公開

市制施行 80 周年を記念して製作した映画「ふたつの昨日と僕の未来」が新居浜市での先行公開後、東京を皮切りに全国で順次公開されました。

映画では、市民の皆さんもたくさん出演され、東平や端出場、煙突山などの産業遺産をはじめとして、あかがねミュージアムや市内の見慣れた風景が次から次へと繰り出され、クライマックスでは山根グラウンドでの太鼓台の担き比べが映し出されました。

また、エンディングではふるさと観光大使の水樹奈々さんが自ら作詞した曲が流れ、まさに「オール新居浜」として、本市の魅力を全国に情報発信できたものと考えています。

■ふるさと祭り東京 2019 への太鼓台派遣

1 月 11 日から 20 日までの間、東京ドームで開催された「ふるさと祭り東京 2019」に庄内と金栄の 2 台の太鼓台を派遣、19 日と 20 日の二日間、首都圏の皆様にも豪華絢爛、勇壮華麗な新居浜太鼓台の競演を披露しました。

当日は、各自治会からの参加者に加え、首都圏近郊に住む本市出身者やゆかりのある人々にもかき夫として参加していただきました。「是非本番の祭りに行ってみたい」、「久しぶりに新居浜に帰ってみたい」など多くの声をいただき、ふるさとへの愛着や誇り、新居浜の魅力を感じていただけたものと思っています。

今後、来年の東京オリンピックの開会式への太鼓台出場を目指し、関係機関に働きかけてまいります。

■第二回「あかがねマラソン」の実施

ハーフマラソンとして、山根公園からマイントピア別子、鹿森ダムに至る高低差約 300 メートルのタフなコースに変更して実施したところ、市内外から多くの選手の皆様に参加していただき、緑に囲まれた自然の中で、産業遺産の息吹を感じながら、選手の皆さんは懸命に走られ、感動の大会となりました。

Hello!  
NEW

新居浜

# 「平成 31 年度 施政方針」2019

2 月 19 日、第 1 回市議会定例会で、石川市長は平成 31 年度施政方針および予算提案説明を行いました。「施政方針」とは、平成 31 年度の市政運営に向けての基本的な考え方と主な施策を示すものです。

今月は、この施政方針と新年度予算案の概要を紹介します。



施政方針について語る石川市長

昨年是一年の世相を表す漢字に「災」が選ばれるなど日本中が災害に見舞われた一年でした。

6 月に発生した大阪北部地震に続き、7 月には愛媛県にも甚大な被害をもたらした西日本豪雨災害など、改めて自然災害の脅威を痛感するとともに、防災対策の重要性を再認識しました。



## 平成31年度の取り組み

今年度は、地方創生を成し遂げるための「新居浜市総合戦略」の完遂、近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震に備えた防災・減災対策の強化・充実、そして東予東部圏域で初めて実施される振興イベント「えひめさんさん物語」の円滑な実施に重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

### 「新居浜市総合戦略」の完遂

人口減少に立ち向かい、地方創生を成し遂げるため、4つの柱（P7参照）を基本に、総合戦略を推進しているところでございます。

具体的な取り組みといたしましては、昨年から市民の皆様が本市への愛着と誇りを高め、シビックプライドの醸成を図るため、「都市基盤」、「産業」、「福祉」など8分野35事業のHello! NEWプロジェクトに取り組んでおり、「子育て世代包括支援センター」の開設や母子健康手帳のICT化、小中学校の空調設備の整備着手、市史編さん事業の開始など、全てのプロジェクトにおいて、ほぼ予定どおり進捗しております。

特に移住・定住の促進を図るための事業では、移住・定住に特化した専用ポータルサイト「新居浜ライフ」を開設した他、若い世代をターゲットとしたフリーペーパー

「#ニイハマ」を作成し、首都圏中心に配布しました。これらの取り組みにより、

### 防災・減災対策の強化・充実

昨年発表されました人口推計では人口減少が想定より緩やかとなり、また本市の有効求人倍率が県内で唯一2倍を超えるなど、着実にその成果が表れてきているものと思っております。また、住友化学株式会社とのメチオニン増設や新居浜LNG株式会社によるLNG基地建设など、住友各社が大型設備投資を実施していただいていることを大変心強く思っております。

昨年の西日本豪雨災害に見られるように、近年頻発する台風や豪雨、さらには近い将来の発生が懸念される南海トラフ巨大地震などに対応するため、防災・減災対策の強化・充実が喫緊の課題であると考えております。

一方、市内の多くの企業で人材不足が深刻化しており、人材確保が喫緊の課題であると認識しています。行政としても企業、関係団体などと連携を図り、人材確保に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

また、「第五次新居浜市長期総合計画」につきましても、完遂に向けて全力で取り組むとともに、併せて10年間の検証を行い、2021年度から始まる「第六次新居浜市長期総合計画」の策定に向けて審議会を立ち上げるなど、具体

今後、全戸に配布予定の各種防災情報を一元化したマルチハザードマップやコミュニティFMと連動した防災ラジオなどを活用し、市民の皆様には災害に備えるという意識を常に持っていただきたいと思っております。防災における基本方針として、できるだけ被害を最小化し、迅速な回復を図る「減災」の考えを周知し、たとえ被災しても、人命が失われぬことを最重視し、さまざまな対策を組み合わせて、災害時の社会経済への影響を最小限にとどめるよう取り組みが必要があります。

平成31年度末の完成を目指し、現在、体験型防災センター機能を備えた総合防災拠点施設





ノ・コトさがし」を多くの皆さんに体験していただき、東予地域の魅力を全国に発信してまいりたいと考えております（P10参照）。

**着眼大局着手小局、  
先手必勝を念頭に**

昨年来、藤井聡太七段の活躍により、空前の将棋ブームが到来してきております。かつて戦後の昭和の時代にも同じような将棋ブームがあり、当時、振り飛車、居飛車など数々の新手を開発し、ブームの中心にいた舩田幸三名人が、色紙にいつも書いておりましたのが「着眼大局着手小局」という言葉でございます。

元々は、中国の戦国時代末の儒学者「荀子」の言葉ですが、物事を長く広い見地から見ながら、目の前の小さなことから実践するという意味でございます。常に、長期的、かつ大きな視点に立ちながら、具体的な事柄を着実に実施していくということは、市政運営にもそのまま当てはまることであります。

市が策定する最上位計画である長期総合計画が大局とすれば、計画を具現化するためには、計画を具現化するための諸施策は小局であり、これを実に実施することが、市が目指すまちづくりの実現につながることであります。「着眼大局着手小局」の見地から、「第五次新居浜市長期総合計画」の完遂に向けて取り組んでまいります。

設を建設しておりますが、今後は、この施設を市民の命を守る防災のランドマークとして、危機管理体制の見直しも含め、ハード・ソフトを組み合わせて、一体的に防災・減災対策の強化・充実を図ってまいります。

法皇山脈の「山」、そして海や街に降り注ぐ「太陽」これらの3つの「さん」、さらには東予3市の「さん」を表しております。

6つの物語として実施するコアプログラムのうち、特に、10月の第5話「あかがね物語」は、東洋のマチュピチュと言われるマイントピア別子東平の絶景を背景に行う初の野外コンサートであり、新居浜市エリアテーマイベントとなっております。

6つの物語として実施するコアプログラムのうち、特に、10月の第5話「あかがね物語」は、東洋のマチュピチュと言われるマイントピア別子東平の絶景を背景に行う初の野外コンサートであり、新居浜市エリアテーマイベントとなっております。

**東予東部圏域振興イベント  
「えひめさんさん物語」**

平成31年度最大の事業として、愛媛県と新居浜市、西条市、四国中央市の東予3市が連携した初めての圏域振興イベント「えひめさんさん物語」を開催いたします。「さんさん」とは、東予地域で脈々と受け継がれている、歴史、文化を背景としたものづくり「産業」と石鎚山や赤石山系、

「三都を巡る、きらめく、モ」

また、キャッチコピーである「三都を巡る、きらめく、モ」

また、今年の干支は「猪」でございます。「猪見て矢を引く」という言葉がございませが、事が起こってから慌てて対策を講ずるという意味ではありません。何事も事が起こってから対策を講じていたのでは、全てが後手に回ります。猪を見て矢を引くのではなく、先手先手で事を行っていくということでございます。

このことは、行政においては常に心掛けておく必要があります。将来を見据えた施策、特に防災対策については、事が起こる前に将来を見据え、先手先手の対応をしていく必要があると考えております。

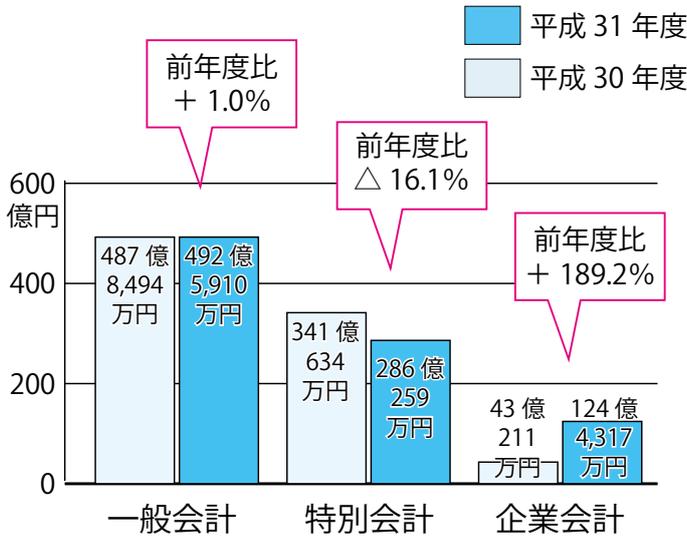


# 平成 31 年度の予算

財政課 ☎ 65-1220

平成31年度の予算規模は  
一般会計合計で903億486万円

## 平成 31 年度 新居浜市の会計別予算額

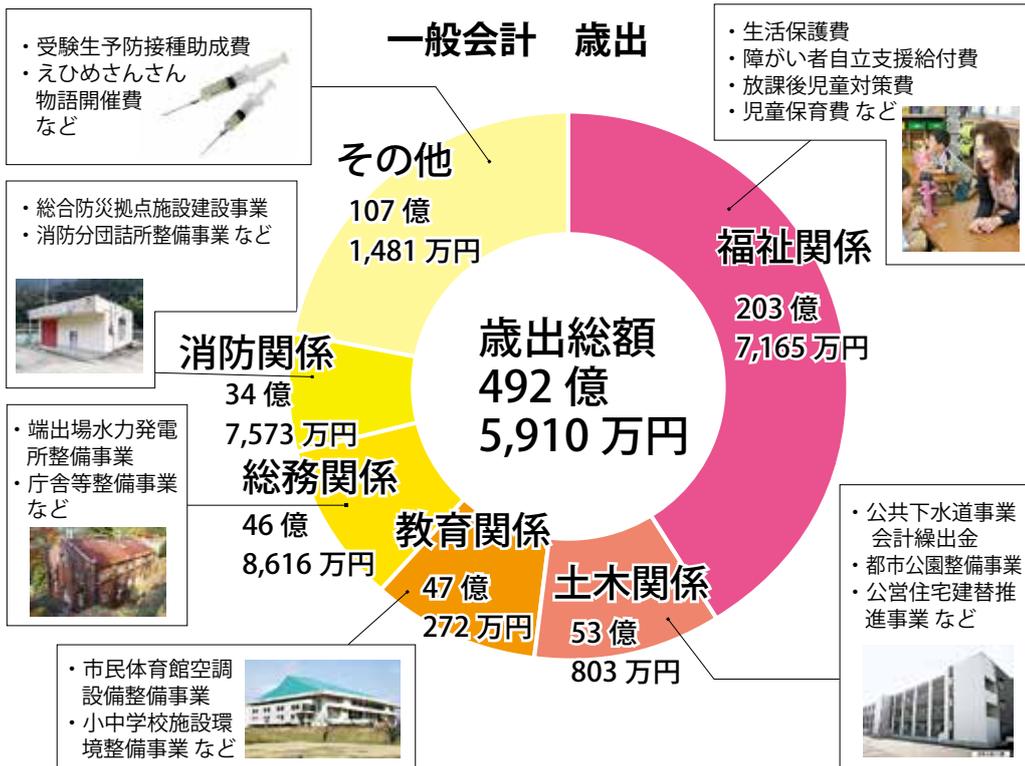


一般会計は対前年度比1%のプラス  
平成31年度の新居浜市全体の予算規模は、903億486万円です。  
内訳は、一般会計が492億5千910万円、国民健康保険事業、介護保険事業などの7つの特別会計が286億259万円、企業会計が124億4千317万円となっています。なお、公共下水道事業については平成31年度から企業会計に移行しています。

▼平成31年度の一般会計当初予算ですが、歳入歳出ともに492億5千910万円となり、対前年度比4億7千416万円の増、率にして1%の増となっています。  
歳入の内訳ですが、市税が197億7千179万円（対前年度比4.2%増）、国庫支出金が71億8千450万円（対前年度比6.4%増）、地方交付税が55億8千万円（対前年度比5.9%増）などとなっています。  
歳出については、生活保護や障がい者自立支援給付、放課後児童クラブや保育園の運営費などの経費が203億7千165万円（対前年度比2%増）と全体の41・4%を占めています。続いて、公共下水道事業会計に対する財政支援、滝の宮公園リニューアル、東田団地（市営住宅）建て替えなどの経費が53億803万円（対前年度比69%増）で10・8%を占めているほか、東雲体育館の空調整備や学校および公民館の老朽化対策工事、教職員の負担軽減のための統合型校務支援システム導入な



## 歳入（収入）と歳出（支出）の内訳



どの経費が47億272万円（対前年度比20・6%増）で9.5%の順となっています。  
その他、東予3圏域で開催

される「えひめさんさん物語」の開催や、地域ポイント制度の導入、国際交流協会設立、受験生のインフルエンザ予防接種費用の助成、さくらひめの生産拡大支援などの経費が新規事業として盛り込まれています。

※さくらひめ（デルフィニウム）：愛媛県が長年研究を重ね開発した花で、平成27年2月18日に品種登録されました。青色系が一般的なデルフィニウムとしては珍しい淡いピンク色で、桜の花を思わせる可憐で温かみのある花です。



# 平成 31 年度 当初予算 4 つのポイント

1

## 防災・減災対策の強化・充実

- ◇総合防災拠点施設の完成
- ◇避難所となる東雲体育館空調設備の整備
- ◇小中学校体育館トイレの洋式化
- ◇防災フォーラム、防災ワークショップの開催
- ◇災害時に活用が期待されるドローンの導入



総合防災拠点施設（完成イメージ）

2

## 新居浜市総合戦略の完遂

住みたい、住み続けたいあかがねのまちの実現を目指して

基本  
目標

1 **新** たな雇用を創り出し、地元産業を振興します

基本  
目標

2 **居** 住地・観光地としての魅力を高め、  
定住人口・交流人口を拡大します

基本  
目標

3 **浜** っ子を増やすため、結婚・出産・子育て支援を  
充実するとともに、健康長寿社会を実現します

基本  
目標

4 **市** 域を超えた連携を進め、地域特性を踏まえた  
時代に合ったまちづくりを推進します

3

## 「えひめさんさん物語」の成功

- ◇ものづくり産業の価値を発見、発展、発信する「ものづくり物語」
- ◇子どもが考え、話し合い、つくる「子どもの物語」
- ◇山脈全体をレストランに見立て新しい魅力を楽しむ「山の物語」
- ◇別子銅山の歴史に思いをはせる音楽コンサート「あかがね物語」



えひめさんさん物語  
EHIME SAN-SAN MONOGATARI

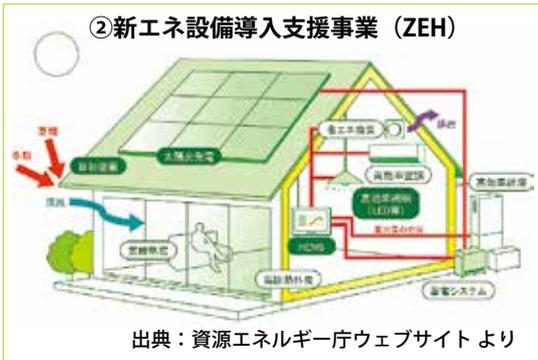
4

## 小中学校教育力の向上

- ◇放課後まなび塾の長期休暇期間中の実施
- ◇小中学校普通教室などへの電子黒板の整備
- ◇校務支援システム導入による教員の負担軽減



※電子黒板：大画面薄型テレビ形式のディスプレイを使用したもので、パソコンやDVDなどの映像を表示するだけでなく、タッチパネルとして子どもたちが画面上に書き込みを行ったり、既存の画像と書き込みを同時に映し出すこともできる。従来の黒板とパソコン、映像機器などが一体化したもの。



Hello!  
NEW  
新居浜

31

年度に実施する主な事業を6つのフィールド（分野）別に掲載します。今年度も「Hello! NEW 新居浜」を合言葉に、みんなが主役、みんなが誇れる、そしてみんなに愛される「新しい新居浜」を創る取り組みを推進し、市民の誰もが幸せを実感できる「笑顔輝く新居浜市」の実現を目指して、全力で取り組みます。

フィールド1 快適交流		
滝の宮公園リニューアル事業①	滝の宮公園について、平成30年度策定のリニューアル基本計画に基づき、順次整備を行います。	5,100万円
公営住宅建替推進事業	新居浜市公営住宅等長寿命化計画に基づき、東田団地の建て替えに向け、実施設計などを行います。	2億2,401万円

フィールド2 環境調和		
新エネ設備導入支援事業②	省エネ性能の高いZEH<ゼッチ>（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス※）を新たに補助対象に加えます。P26に関連記事	960万円

フィールド3 経済活力		
プロフェッショナル人材確保支援事業費	企業が必要とする幹部人材や専門人材など、プロフェッショナル人材の確保への支援に取り組み、市内企業の競争力の底上げを推進するとともに、本市へのUIJターンの増加を図ります。	250万円
創造型研究開発支援事業費	先端技術を活用した分野への取り組みについて、技術の高度化、製品・商品開発の推進を図るため、国立研究開発法人産業技術総合研究所などと市内中小企業が連携、協力して実施する研究開発を支援します。	789万円
機械加工人材育成プログラム策定費③	地域における包括的な製造業人材の育成を図ることを目的に、本市製造業の中核をなす機械加工業に関する技能・技術者の育成カリキュラムの策定を行います。	294万円
えひめさんさん物語開催費	東予東部3市の魅力を発信し、交流人口の拡大や観光振興、産業人材の確保につなげるため、えひめさんさん物語を開催します。P10・11に関連記事	5,277万円

※ ZEH：断熱性能が高く、暖房や給湯などのエネルギー消費が少ない設備を使った省エネ性の高い住宅で、かつ、使う分と同程度のエネルギーを発電することで、建物のエネルギー消費量が正味ゼロとなる住宅のこと。



⑥新居浜市美術館特別企画展開催費



④受験生予防接種助成費

助成額  
1,000 円/人



住宅取得  
20 万円

50 万円

⑦三世代同居促進事業費

小中学校体育館 → 体育館トイレの洋式化

- ・災害時の避難所に指定
- ・地域行事でも開放

⑤小中学校トイレ洋式化整備事業

## フィールド 4 健康福祉

受験生予防接種助成費④	中学三年生および高校三年生を対象に、インフルエンザ予防接種費用を助成します（助成額 1,000 円 / 人）。	229 万円
骨髄バンクドナー支援費	骨髄または末梢血管細胞を提供するドナーおよびその勤務先に助成金を支給し、ドナーや勤務先の負担を軽減することにより、骨髄などの移植推進を図ります。	90 万円
特定健康診査等事業費	40～74 歳の国民健康保険加入者に対し、生活習慣病の早期発見、重症化予防のための特定健康診査について、個人負担を無料化することにより、受診率の向上を図ります。	9,567 万円

## フィールド 5 教育文化

放課後児童対策費	現在小学校低学年を対象として実施している放課後児童クラブを高学年まで拡充します。	1 億 7,042 万円
小中学校トイレ洋式化整備事業⑤	避難所にも指定されている小中学校体育館のトイレの洋式化を行います。	2,370 万円
小中学校 ICT 環境整備推進事業費	・小中学校普通教室などへの電子黒板の整備 ・小中学校への校務支援システムの導入	7,538 万円
市民体育館空調設備整備事業	大規模災害発生時の主要な避難所にもなる東雲市民体育館への空調設備の整備を行います。（工期 8 月～3 月）	4 億 9,260 万円
新居浜市美術館特別企画展開催費⑥	特別企画展として、「没後 10 年 平山郁夫シルクロードコレクション展」を開催します。P12・13 に関連記事	2,146 万円

## フィールド 6 自立協働

総合防災拠点施設建設事業	平成 31 年度中の完成を目指し、建設を推進します。	18 億 9,869 万円
三世代同居促進事業費⑦	三世代同居・近居に対する支援を拡充し、子育てのしやすい環境づくりを行います。	500 万円

問 総合政策課 ☎ 65 - 1210 FAX 65 - 1216  
問 財政課 ☎ 65 - 1220 FAX 65 - 1216